

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

アメリカの長い伝統が変わることになるのか 野口 悠紀雄 (早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. アメリカ大統領選挙におけるドナルド・トランプ氏の勝利を見ていると、アメリカがローマ帝国の轍を踏むのではないかという懸念に襲われる。ローマ帝国が長期にわたって繁栄を続けられたのは、異質性や多様性を尊重したからだ。トランプ氏が呼び掛け、そして支持を獲得したのは、古い製造業の労働者たちだ。その対極にあるのが、シリコンバレーのハイテク IT 産業だから、彼の攻撃の矛先がシリコンバレーに向かうのも、自然なことだ。それが口先だけで終わればよいが、実際にシリコンバレーの存在を揺るがすような政策を導入するかもしれない。
2. シリコンバレーで最も重要なのは、人間の頭脳だ。機械設備や資本ではない。ところでその頭脳は、必ずしもアメリカ人のそれではない。外国人の頭脳が大きな役割を果たしている。シリコンバレーにおける技術開発は IC によってなされた、とよくいわれる。IC とは「インド人と中国人」という意味だ。最近では、グーグルやマイクロソフトに、インド系の CEO (最高経営責任者) が誕生している。
3. 異質性の尊重こそがアメリカの力の源だ。もともとアメリカの科学技術は外国人によって支えられてきた。第 2 次世界大戦中には、ナチスドイツを逃れてヨーロッパからアメリカにきた科学者たちが、アメリカの科学水準を飛躍的に向上させた。このようなアメリカの長い伝統がここで大きく変わるようになるかもしれない。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2016 年 12 月 10 日号)

ワンポイント経営アドバイス

逆境がチャンス

似鳥 昭雄 (ニトリホールディングス会長)

1. 小売業はオーバーストアとかいわれているが、立地調査をしてわれわれが積極的に出店していく姿勢は変わらない。日本の景気は 2017 年も同じ状況だと思う。決して悪くないしよくもない。2018 年になると中国の成長鈍化の影響があり、2019 年には消費税の増税が待っている。オリンピックが終わった後の 2020 年以降は反動で悪くなって当たり前だ。2017 年のうちに対策を打っておかないと、淘汰されていく。
2. 米国の小売業は 10 年先を進んでいるが、寡占化し、業界が数社に絞られていることから明白だ。ただ、そういった逆境が私たちのような会社にとってのチャンスと見て攻めていきたい。

(参考:「週刊東洋経済」: 2016 年 12 月 31 日・2017 年 1 月 7 日号)

人事・労務について

働き方改革の目的は生産性向上

永守 重信 (日本電産会長兼社長)

1. 働き方改革は手段であって目的ではないし、何かのノウハウを使えばできるというものでもない。今の働き方改革ブームは、そここのところを勘違いしている向きが多いように思えてならない。目的は、生産性を上げることではないだろうか。特に長い間手が着いてこなかったホワイトカラーの生産性改革だ。こういって、すぐに「社員にきつい思いをさせて、その果実は会社で取るのか」と受け取る人がいる。全く違うし、そんなことだと社員の協力は得られない。
2. 働き方改革は、経営者がやかましくいうだけではできない。改革で生まれた利益を社員に還元することが、彼らのやる気を刺激し、改革をさらに動かす。収入だけではなく、スキルが上がれば仕事が楽しくなるからさらに意欲がわくはずだ。残業時間を減らすのはあくまでも手段であり、目的は生産性向上であるといった考え方をしっかり持たないとだめだ。

(参考:「日経ビジネス」2016 年 12 月 26 日・2017 年 1 月 2 日号)

古典に学ぶ

優雅の定義

(解説) およそ何事でもしようというのなら、たしかにそれをする最良の道があるはずで、その最良こそは、最も経済的であるとともに最も優雅な道である。スペンサー (1820 年～1903 年、イギリスの哲学者) 氏は優雅を定義して、最も経済的な運動の仕方とのべた。

(参考: 佐藤全弘 (訳) 新渡戸稲造著「武士道」: 教文館)